資料　6

写真展　展示構成

昭和館写真展「うつりゆく昭和の九段下界隈」

会期：令和４年３月１９日（土）～５月８日（日）
会場：昭和館　２階ひろば

・令和4年春期写真展タイトル
「うつりゆく昭和の九段下界隈」

・会期
令和4年3月19日(土)～5月8日(日)
設営：令和4年3月17日(木)
撤収：令和4年5月10日(火)

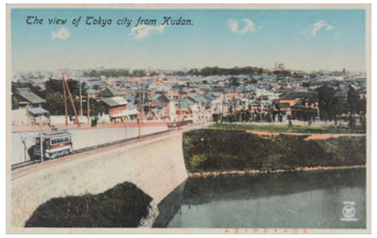
・パネル展示(カラー：4点・モノクロ：36点)
大パネル：750mm×600mm　6点
中パネル：500mm×400mm　34点

・後援
千代田区　千代田区教育委員会

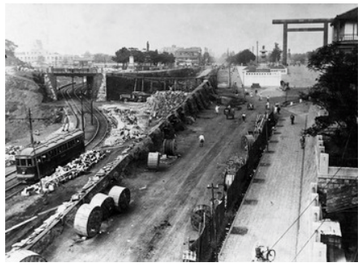
ごあいさつ

昭和館では、所蔵写真を通して戦中・戦後のくらしを知っていただくために毎年写真展を開催しています。
今年の春は『うつりゆく昭和の九段下界隈』と題して、九段下とその周辺の写真をご紹介します。
千代田区九段は、古くから桜並木や内濠のほとりなど四季折々の風景を楽しむことのできるスポットが数多くあり、景勝地・行楽地として知られていました。靖国神社や千鳥ケ淵戦没者墓苑には、戦没者への慰霊と平和への思いを胸に今も多くの遺族が訪れます。
戦時中には空襲で甚大な被害をうけ、焼け残った建物の多くが戦後GHQ(連合国軍最高司令官総司令部)により接収されました。九段下の象徴的な建造物であった「軍人会館」も昭和20年(1945)9月に接収され米軍士官の宿舎や食堂として利用されていました。昭和32年1月に返還後、平成23年(2011)まで日本遺族会がホテルや結婚式場を備える「九段会館」として運営してきました。
時代とともにうつりゆく九段下とその周辺の様子を、お楽しみください。

絵葉書



1. 九段坂の大改修工事の様子



大正12年(1923)に発生した関東大震災の復興事業で、大正通り(現・靖国通り)では九段坂を掘り下げることで坂をゆるやかにするとともに、道幅を広げる大改修工事が行なわれた。
改修工事前、市電は牛ヶ淵・千鳥ヶ淵沿いを走行し、田安門に向かう土橋はトンネルで通過していた。

九段北

昭和2年(1927)頃

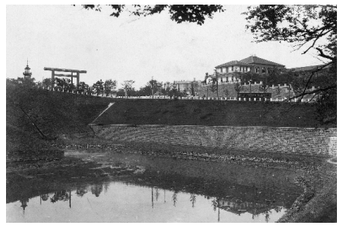
2. 工事後の九段坂下の様子

大改修工事を終えた九段坂と大正通り(現・靖国通り)。遠望に見えるのは靖国神社大鳥居。手前は日本橋川に架かる俎橋(まないたばし)。
神田方面と市ヶ谷方面を結ぶ市電が走行している。牛ヶ淵・千鳥ヶ淵沿いを走行していた市電は、改修工事により道路の中央を走るようになった。

神田神保町

昭和5年(1930)頃

3. 工事後の牛ヶ淵と九段坂



九段坂から一段高い位置にある建物は、明治10年(1877)に陸軍将校の親睦などを目的として創設された偕行社の集会所。靖国神社の大鳥居と常燈明台(じょうとうみょうだい)も見える。
常燈明台は、明治4年に靖国神社(建立当時は東京招魂社)の高燈篭(たかとうろう)として、偕行社の傍に建てられたが、大改修工事中の大正14年に九段坂を挟んだ田安門側へと移設された。

九段南

昭和5年(1930)頃

4. 靖国神社に参拝する遺族

靖国神社では、春と秋の例大祭や、臨時大祭が行われ、地方から訪れた多くの遺族たちで境内はにぎわった。胸に徽章(きしょう)を付けているのは参列した遺族と思われる。

九段北

昭和9年(1934)

師岡宏次撮影

5. 神保町の書店街

戦前から御茶ノ水や神田駿河台には、専修大学や明治大学など複数の教育機関が集まっており、神田神保町を中心とする一帯には、学生や研究者が教科書等の売り買いを行うための書店街が形成されていた。

神田神保町

昭和9年(1934)2月

石川光陽撮影

6. 神保町の裏通り

通りの左右には、喫茶店や雀荘(じゃんそう・マージャンを打つ遊戯施設)、映画館の神田日活館などが見える。
神田神保町には女性が給仕するカフェーが建ち並ぶ一角もあり、学生たちのたまり場となる娯楽施設が多くあった。

神田神保町

昭和9年(1934)2月

石川光陽撮影

7. 完成した軍人会館

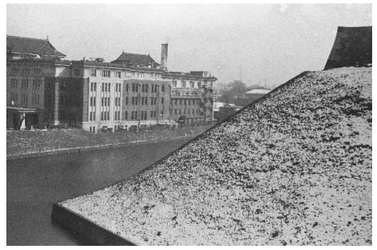
軍人会館(現・九段会館)は、退役軍人による組織の帝国在郷軍人会により、昭和9年に新築された。写真は同年3月25日に行われた落成式の前後に撮られたものと思われる。
鉄筋コンクリートのビルに瓦ぶき屋根を冠した「帝冠様式(ていかんようしき)」の外観は、現在進められているリニューアルプロジェクトでも一部が保存・復元される。

九段南

昭和9年(1934)3月

米国立公文書館提供

8. 戒厳司令部となった軍人会館	9. 愛国婦人会の行進	10. 朝の白山通り	11. 雨の中を走る東京市電	12. 春たけなわの内堀通り
昭和11年2月26日、陸軍の青年将校らが陸軍省・参謀本部・警視庁など国の中枢を武装占拠した。(二・二六事件) 翌27日には戒厳令が発令され、鎮圧のため戒厳司令部が軍人会館(現・九段会館)に設置された。会館前の九段下交差点には土嚢が積まれ、戒厳部隊が警戒にあたった。	九段下交差点を通過する愛国婦人会。香淳皇后の誕生日を祝い、靖国神社から皇居前広場に向かって行進が行われた。 同会は明治34 年(1901)、戦死者遺族及び傷痍軍人の救済を目的として創立され、本部は軍人会館(現・九段会館)に隣接していた。婦人報国運動のほか、女性や母子のための支援など幅広い社会活動も行った。	通勤で先を急ぐ自転車が行き交う白山通り。道路を渡る乗降客を誘導するためか、東京市電18系統の車両の横にはサーベルを下げた巡査が立っている。 市電18系統は、神田橋と下板橋を結ぶ路線で、春日や巣鴨を経由していた。	九段下ビルを背に俎橋(まないたばし)を渡る東京市電。 同ビルは関東大震災の復興助成を受け、昭和2年に今川小路共同建築として竣工した耐火建築の店舗併用住宅。平成24年(2012)に解体され、跡地は専修大学神田高層新校舎(10号館)となっている。	九段坂上にある靖国神社の石鳥居を背に、満開の桜の中を自動車が走り抜けている。 九段坂上は、江戸の頃から城下町を一望できる景勝地として知られていた。明治以降は桜の植栽や行楽施設の整備などが行われ、一帯は行楽地としての性格がより強くなった。
九段北	九段北	神田神保町	九段南	九段南
昭和11年(1936)2月	昭和12年(1937)3月	昭和12年(1937)	昭和13年(1938)4月	昭和13年(1938)
米国立公文書館提供	米国立公文書館提供	石川光陽撮影	渡辺豊貞撮影	師岡宏次撮影

13. 郵便物を投函する女性	14. 牛ヶ淵から見た軍人会館	15. 靖国神社に参拝する遺児たち	16. 九段坂を行進する人びと	17. 東方社の屋上から見た空襲の黒煙
				
雨の中、傘をさして郵便物を投函しようとする女性。 丸型ポストには九段一丁目の住所が記され、現在の九段郵便局付近で撮影されたものと思われる。	濠には雪が残り、軍人会館(現・九段会館)の屋上には鳥居や社が見える。 かつて同会館の敷地は靖国神社牛ヶ淵附属地で、非常時に備えて靖国神社の仮殿が設けられていた。会館が建築されると、仮殿は屋上へ移された。	靖国神社に参拝に訪れた富山県代表の遺児たちの記念撮影。 昭和14年から戦没者遺児のための靖国神社参拝行事が実施されるようになり、全国各地から遺児たちが上京し靖国神社を訪れた。	軍人会館(現・九段会館)を背景に街頭行進をしている大日本労務報国会。 同組織は日雇い労働者の国策協力機関で、写真当日の昭和18年6月2日は、軍人会館で創立総会及び記念式を挙行後、行進をしながら靖国神社参拝や宮城遥拝(きゅうじょうようはい)を行った。	消防車が軍人会館(現・九段会館)の前を走り、黒煙の上がる銀座・京橋方面に向かっているものと思われる。野々宮アパートの屋上から東方社が撮影。 東方社は昭和16年4月に陸軍参謀本部のバックアップのもと設立された出版社で、野々宮アパートに事務所を構えていた。同アパートの跡地は現在、北の丸スクエアとなっている。
九段南	九段南	九段北	九段南	九段北
昭和13年(1938)4月	昭和15年(1940)頃	昭和16年(1941)3月29日	昭和18年(1943)年6月2日	昭和20年(1945)1月27日
渡辺豊貞撮影	師岡宏次撮影	門奈次郎撮影 日本写真家協会(JPS)提供	石川光陽撮影	東京大空襲・戦災資料センター提供

18. 東京大空襲翌日の九段下交差点	19. 東京大空襲翌日の九段坂	20. 九段坂上の空襲被害	21. 焼け跡での告別式	22. 瓦礫を片付ける人びと
左手の焼け残ったビルは、東方社が事務所を構えていた野々宮アパート。 野々宮アパートは昭和11年に建てられ、1階と2階には野々宮写真館が入っていた。3階から8階までは同写真館が経営するアパートであった。戦後は接収され、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）の家族向けアパートとして使用された。	中央にある建物は偕行社の宿泊施設で、戦後この建物はGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）により接収され、米軍士官の宿舎（ミトリ・ホテル）として使用された。左端には空襲被害により外壁だけとなった同社の集会所が写り込んでいる。	焼け野原となった九段南三丁目付近。東京大空襲の翌日に撮影されたもの。 焼け残った建物は東京家政学院（現・東京家政学院大学千代田三番町キャンパス）の校舎。	九段下界隈は、昭和20年5月24日と翌25日に空襲をうけた。まだ瓦礫が散乱する中、焼香台を焼け残ったミシン台で代用するなどして執り行われた告別式の様子。前方に見える煙突は、九段北一丁目にあった銭湯・梅ノ湯の煙突と思われる。 東京都は昭和19年5月に『罹災死体処理要綱』を作成し、空襲時の遺体処理対応を定めていた。	瓦礫に町内会の旗を刺し、近隣住民で協力して片付けに当たる様子が写されている。 焼け残った建物の多くは、レンガやコンクリートといった耐火性のある建築物である。
九段南	九段南	九段南	九段北	神田須田町
昭和20年（1945）3月11日	昭和20年（1945）3月11日	昭和20年（1945）3月11日	昭和20年（1945）5月26日	昭和20年（1945）6月10日
石川光陽撮影	石川光陽撮影	石川光陽撮影	東方社・光墨弘撮影 東京大空襲・戦災資料センター提供	東京大空襲・戦災資料センター提供

23. バラックで生活する家族	24. 靖国神社へ参る人びと	25.神田の焼けあと	26. 上空から見た軍人会館とその周辺	27. 畑となった皇居の濠
空襲で焼け野原となった土地に、廃材を集めて作った建物（バラック）を造り、そこで逞しく生活を始める人びとの姿がうかがえる。	昭和20年8月15日、ラジオを通して玉音放送が流れ、人びとは戦争が終わり、日本が負けたことを知った。その翌日、靖国神社へ参拝に訪れる人びとの姿が見られた。	空襲による瓦礫やコンクリート片などが残り、片付けに追われる人びとの姿が見える。 後方には焼け残った島津製作所やYMCAのビルが写る。戦後、両ビルと共に周辺の焼けあともGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）によって接収された。	軍人会館（現・九段会館）周辺にも空襲の焼け跡がみられる。 牛ヶ淵のお濠沿いに軍人会館が建ち、内堀通りを挟んで向かいには、博文館創業者の大橋新太郎氏が設立に関わった「大橋図書館」や、りそな銀行の前身となる「日本貯蓄銀行」の建物等が見える。	耕されて畑となっている牛ヶ淵のほとり。 戦後 も食糧難は深刻で、校庭や焼け跡の空き地などを耕作し、野菜などを育てる様子が見られた。
旧・神田区 （詳細場所不詳）	九段北	内神田	九段南	九段南
昭和20年（1945）6月	昭和20年（1945）8月16日	昭和20年（1945）頃	昭和20年（1945）9月5日	昭和21年（1946）
東方社・光墨弘撮影 東京大空襲・戦災資料センター提供	石川光陽撮影	佐藤徳治撮影	米国立公文書館提供	米国立公文書館提供

28. アーミーホールとなった軍人会館

接収され、アーミーホールとなった軍人会館（現・九段会館）。昭和32年1月までGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）が宿舎や食堂として使用した。
撮影者のカルメン・ジョンソン（Carmen Johnson）は、GHQのタイピストとして21年8月に来日し、アーミーホールに一時滞在していた。

九段南

昭和21年（1946）8月

カルメン・ジョンソン撮影
CARMEN JOHNSON COLLECTION, GENERAL DOUGLAS MACARTHUR FOUNDATION

29. 神田復興祭のパレード

アメリカからの食糧支援に感謝して、神田駅近くをパレードする住人たち。支援物資が入っていた缶にだるまを載せた山車や、食パンを模した山車も見える。このほか神田復興祭では戦火に逃れた神輿も登場し、賑わいをみせた。

神田鍛冶町

昭和21年（1946）9月

米国立公文書館提供

30. 靖国神社のみたままつり

靖国神社の前で「盆踊り」を踊っている地元の芸妓たち。夏の風物詩として親しまれている「みたままつり」は、戦没者の御霊（みたま）を慰めるお祭りで、日本に古来からある亡き人びとの御霊を大事に祀る信仰にちなんで昭和22年からはじまった。

九段北

昭和23年（1948）7月19日

米国立公文書館提供

31. 皇居の濠で魚つりをする人びと

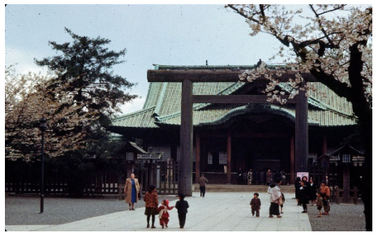
清水濠のほとりに腰かけて魚つりをする人びと。その向こうには九段会館が見える。清水濠を含む皇居一帯は、昭和22年に国民公園として一般開放されていた。24年5月に魚釣りを禁じた国民公園管理規則が制定され、現在、園内での植物採取や鳥獣魚類の捕獲は禁止されている。

北の丸公園

昭和23年（1948）～24年

ディミトリー・ボリア撮影 マッカーサー記念館提供

32. 靖国神社の桜



桜の咲く中、靖国神社拝殿の前に立って記念撮影するリラ・ワーナー（Rella Warner）。
GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）に勤務する夫のジェラルド・ワーナー（Gerald Warner）と共に昭和23年に来日。26年の離日まで各地を巡り、街や人びとの様子をカメラに収めた。

九段北

昭和25年（1950）4月

ジェラルド・ワーナー&リラ・ワーナー撮影 ラファイエット大学スキルマン図書館提供

33. 神田祭

神輿を担ぐ子どもたち。
神田祭は神田明神の名で親しまれている神田神社の祭事で、2年に1度開催される。戦時中は昭和17年を最後に中止を余儀なくされていたが、27年に10年ぶりに復活した。

内神田

昭和27年（1952）5月

佐藤徳治撮影

34.遺児参拝の記念写真

夏休みに5泊6日の日程で上京し、靖国神社を訪れた熊本県遺児団の一行。二つの旗には「熊本県靖国参拝団」、「下益城郡（しもましきぐん）靖国参拝団」と書かれている。

九段北

昭和28年（1953）8月6日

35.日本橋川に架かる南堀留橋

俎橋（まないたばし）から撮影した南堀留橋。関東大震災の復興事業の一環で昭和3年に架橋された。橋の下を流れるのは日本橋川で、現在は首都高速5号線の高架に覆われている。
橋のたもとには日刊工業新聞社のビルがあり、平成16年（2004）まで本社としていた。

神田神保町

昭和35年（1960）8月頃

持田晃撮影

36.神保町一丁目の十一軒長屋

建物正面をモルタルなどの耐火素材で洋風に装飾した、木造2～3階建ての長屋式店舗。関東大震災の復興期に多く建てられた。
写真は十一軒長屋と呼ばれる長屋式店舗で、空襲被害を逃れ戦後も店舗として利用されていた。前面の道路は靖国通り。

神田神保町

昭和36年（1961）7月頃

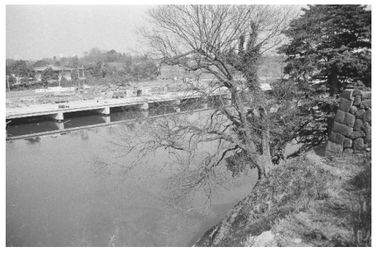
持田晃撮影

37. 神田小川町のまち並み

上空から撮影した神田小川町周辺。
靖国通りに面した、大手総合スポーツ用品メーカー美津濃（みずの）株式会社のビル壁面には、第18回オリンピック東京大会のエンブレムが掲げられている。

神田小川町

昭和39年（1964）

38. 千鳥ヶ淵と建設中の首都高速道路	39. 日本武道館	40. 千鳥ヶ淵の桜
		
第18回オリンピック東京大会を控え、道路整備が進められている。千鳥ヶ淵付近では都心環状線の建設工事が行われ、景観に配慮して水面すれすれになるよう橋脚が設置された。 橋脚の左奥には、千鳥ケ淵戦没者墓苑の六角堂が見える。	戦後、GHQ（連合国軍最高司令官総司令部）による非軍事化政策の一環で、柔道・剣道・弓道などの武道は一時全面禁止になった。 第18回オリンピック東京大会では、日本の国技である柔道が正式競技となり、武道を普及啓発する施設として日本武道館が建設された。	千鳥ヶ淵の田安門そばのほとり。 田安門に向かう坂では、花見を楽しむ人びとや桜を写そうとする様子が見られる。
北の丸公園	北の丸公園	九段南
昭和39年（1964）頃	昭和39年（1964）	昭和44年（1969）4月頃
師岡宏次撮影	師岡宏次撮影	太田畯三撮影